

柏原市立小・中学校適正規模・適正配置審議会 第8回会議 会議録

開催年月日	平成27年11月10日(火)	
開催場所	柏原市教育委員会 教育委員会室	
開催時間	午後7時30分	
出席委員 (順不同)	島 会長 水原 委員 今水 委員 小川 委員 浦上 委員	茨木 委員 興梠 委員 辰巳 委員 平田 委員
事務局	尾野教育部長 中野次長兼教育総務課長 松田学務課長	蛇草教育監 野間指導課長 赤塚学務課指導主事
傍聴者	なし	
議事案件	・審議事項について 柏原中学校区の適正配置について	

【事務局】 ただ今より、第8回柏原市立小・中学校適正規模・適正配置審議会を開催いたします。

本日の司会をさせていただきます、学務課の赤塚でございます。よろしく願いいたします。会議に入る前に、事務局から資料の確認と簡単な説明をさせていただきます。

【事務局】 事前に郵送させていただきました資料ですが、次第、補助資料、前回の会議録、でございます。また、新たな資料としましてN0.28の柏原市の将来推計人口があります。追加の資料としましてN0.25の校舎配置図(国中、国小、国分東小)です。次に、N0.27の追加資料として国分中学校区の詳細地図でございます。資料一覧表も新たに作成しました。

以上でございます。何かご質問ございますでしょうか。

【委員】 ありません。

【事務局】 ありがとうございます。続きまして、議事に移ります。島会長よろしく願いいたします。

【会長】 まず、第7回審議会会議録について確認します。先日郵送させていただ

きました会議録をご覧になって、訂正や追加等はありませんか。

【委員】 ありません。

【会長】 では承認します。

【事務局】 ありがとうございます。後日ホームページに掲載させていただきます。

【会長】 前回から各中学校区の審議に入りました。柏原中学校の審議を深くしてきましたが、これからも同様に、様々な角度から審議いただき、忌憚のないご意見をお願いします。

では、一つ目の審議事項について事務局からお願いします。

【事務局】 補助資料をご覧ください。前回、ご審議いただきました内容をもとに一部、変更しております。まず、「各中学校区の適正規模・適正配置を考えるにあたって」という題で、今後審議していただく基本となる考えを示しました。

柏原市の将来推計人口は、「日本の地域別将来推計人口」（出典：国立社会保障・人口問題研究所）によると、35年後の平成52年には、5歳から14歳の人数は3,483名になると見込まれている。平成27年の5歳から14歳の人数は、6,081名であり、この人数を100%とすると約57%に減少することになる。その頃には、全ての小・中学校が小規模校になると見込まれ、中学校の統合も視野に入れる必要が出てくると考えられる。本審議会では、各中学校区の適正規模・適正配置を考えるにあたり、住民基本台帳から推測される約10～15年先の学校規模を基に審議するものとする。基本的には中学校の統合の必要性はないと考えるが、今後、経済状況を始め、柏原市を取り巻く様々な状況により、将来推計人口が変化することが考えられるので、5年程度を目途に、今後の学校規模・学校配置について、見直しをすることが望ましい。

【会長】 何か質問はありませんか。

【委員】 推計人口の数字はどこから出されたものですか。

【会長】 国立の専門機関が一定の手法を用いた計算式に当てはめて算出しています。一番確からしいという数字です。

【事務局】 No28の2枚目の各学校別児童・生徒数は、それを基に単純に割合を掛けて算出しました。

- 【会 長】 「5年程度を目途に」とはどういうことですか。
- 【事 務 局】 将来推計人口は変動しますので、5年後を目途に見直す必要があるのではないかとということです。
- 【会 長】 今、一定結論は出すけれども、0歳児からの数に基づいて、5年後くらいを目途に見直しましょうということです。
- 【委 員】 基本的には中学校の統合は必要ないとありますが、堅下南中学校も置いておくということですか。
- 【委 員】 そうすると、小学校に限定した議論になるということですか。
- 【事 務 局】 小学校の校区については審議していただけたらと思います。
- 【委 員】 人数だけに注目すれば、中学校は統合の対象としないということになりますが、耐震化工事や防災の観点も盛り込むのかどうか・・・曖昧になりませんか。
- 【事 務 局】 この部分だけ見ると、子どもの数のみを考えているように思えますが、そうではありません。
- 【会 長】 学校規模の観点からは中学校については考えない、しかし、その他の要因の観点からは考えるなどと分けて書き足す必要があるということですね。
- 【事 務 局】 誤解を生まないように書き方を考えます。
- 【会 長】 「学校規模について、中学校は現状のものを基本にした上で、小学校の校区を検討する。配置については小中学校をあわせて考えるものとする。」という感じですね。
修正はしていただきますが、内容についてはよろしいか。
- 【委 員】 はい。
- 【会 長】 全ての中学校区を考えるスタンスを示してもらっています。では、次回の再提案をよろしくお願いします。この議論は一旦終わります。
次、柏原中学校区について事務局からお願いします。
- 【事 務 局】 では、資料をご覧ください。柏原中学校区の現状と課題は、概ね同じですが、通学区域に地域社会の内容を追加しました。

- ・子ども会は、それぞれの小学校区内に複数ある。小学校区ごとに集まり、学校のグラウンドで活動することもある。(盆踊り大会、ソフトボール大会等) 小学校区で分断されている子ども会はない。
 - ・自治区が学校区域で分断されているのは、法善寺1丁目第2区で柏原東小学校区域と堅下北小学校区域に分かれている。また、太平寺1丁目第1区は柏原東小学校区域と堅下南小学校区域に分かれている。
- 続いて、「今後の適正規模・適正配置についての方策」を読みます。

【基本的な考え方】

- ・柏原中学校と柏原小学校は、適正規模で推移するため、再編の必要は生じない。
- ・柏原東小学校は、小規模校と適正規模校の境界の学校となる見込みであるため、適正規模を考える必要がある。

1：柏原東小学校の通学区域の見直しは難しい

- ・柏原東小学校は、近鉄大阪線や近鉄道明寺線、JR大和路線で区切られているため、通学経路の安全面の整備を考えると容易に見直しは難しいと考えられる。また、太平寺地区は堅下南小学校区であり、見直して柏原東小学校区に組み入れた場合、ますます堅下南小学校の小規模校化が進む可能性が高くなるので、見直しは難しい。

2：柏原小学校と柏原東小学校を統合し、適正規模化を図る

- ・柏原東小学校については、比較的敷地面積が広い柏原小学校に柏原東小学校を統合する方策が考えられる。その際の学校規模は、平成32年度で児童数750名、学級数22学級であり、適正規模である。
- ・通学条件については、具体的な安全対策が一層必要になるので、今後十分に検討することが望ましい。

3：小中一貫教育を推進するために

- ・柏原中学校は、耐震化工事が差し迫った課題である。柏原中学校を耐震化して、小学校は前述のように統合する方策も考えられるが、柏原中学校区は、従来から2小1中型小中一貫教育に取り組んでいることから、これまで蓄積してきた実践を生かし、今後さらに小中一貫教育を推進するためにも、小中一貫教育校の設立を検討することが必要である。
- ・柏原中学校区で小中一貫教育校の敷地を新たに確保することは難しいと考えられるので、施設規模や通学条件等から柏原中学校の敷地内に施設一体型の小中一貫教育校を建設するのが現実的と考える。
- ・新たに施設一体型小中一貫教育校を柏原中学校区に創設すると仮定すると、平成32年度には児童生徒数約1,101名、学級数32学級と予想される。その内訳をみると小学校22学級、中学校10学級と

なり、小学校、中学校共に適正規模である。

- ・なお、今後の検討にあたっては、学校教育法の改正により新たな学校の種類として規定された「義務教育学校」の創設も視野に入れることが望ましい。

【会長】 ありがとうございます。現状と課題は前回のものに少し修正が入っています。方策は3つの視点でわかりやすくなっています。ご意見をどうぞ。

【委員】 柏原小学校に一回柏原東小学校を集めて、その後小中一貫校にするということですね。三段階ということですか。

【事務局】 方策として三つあるということです。

【委員】 地域にも説明していく必要があります。

【会長】 少し読み取りで解釈の違いがあるようです。柏原小学校と柏原東小学校を統合して、それから一体型にするように読めてしまうということです。しかし、事務局の提案は、二段階ではないということです。二番と三番は対立するものではないので、小学校も一緒にしてなおかつ中学校も同時に一緒にしようということですね。一回で全部やっつけてしまおうということです。ミスリードがないように示す必要がありますね。

【委員】 子ども会の立場からすると、統合された場合、学校のグラウンドなどの活動の場が集中するので、場所が確保できるのかが心配です。子どもからお年寄りまで、さまざまな年齢の人が集うということはとても大切だと考えています。それが地域社会の安定につながるのです。

【会長】 重要な考えだと思います。どんな地域の中の学校を目指すのかということと、地域と学校群のつながりは大切ですね。

3つの見出しの改善案を少し考えてみました。①通学区域の見直しによる柏原東小学校の適正化は難しい、②はそのまま、③柏原小学校、柏原東小学校の統合と同時に柏原中学校と統合する、とすると誤解が避けられるのではないのでしょうか。

③ですが、大事なのは自治会活動が統合にあたってどうなるのかと防災の観点は説明できないといけません。現時点では、こういう課題がありますという提言が必要でしょう。地域の声、保護者の声も聞くべきだと思いますが、この審議会の段階では時間的に難しいので課題はきちんと出しておくべきだと思います。

このような扱いでいかがでしょう。

- 【委員】 建て替えとなると30年、40年先を考えて造るべきです。置いておきますとなっている中学校の統廃合を考えることも必要になってくるのかなと思います。個人的には施設分離型が良いのではないかと思います。
- 【委員】 視察に行った京都の学校も分離型でしたね。しかし、学校間が離れていて大変だろうと思います。
- 【委員】 柏原市は分離の経験はありますが、統合の経験はありますか。
- 【事務局】 ありません。
- 【会長】 今考えているのは、一つの学校が消えるタイプではなくて、二つとも引越そうという統合ですよ。だからと言って簡単ではありません。PTAも二つが一つになるから一からつくらなくてはなりません。考えなければならぬことはたくさんあります。
- 【委員】 実行委員会を立ち上げてつくっていった例もあるようです。
- 【委員】 柏原小学校と柏原東小学校は今も柏原中学校で一緒になるので、そこまでの混乱はないのかと思います。
- 【会長】 事務局どうでしょう。
- 【事務局】 中間答申の際に6つの視点を設けました。このことからすると、地域や防災の視点を各論にも入れる必要があると思います。
- 【会長】 それでよろしいですか。
- 【委員】 はい。
- 【会長】 元へ戻ります。方策については、基本的な考え方の3点目に、施設一体型のことも入れる必要があります。大切なポイントですから。また、順番は耐震が最初にありますが、それでいいのでしょうか。順番も一定の考え方で決める必要があると思います。
- 【委員】 柏原小学校区の者からすると、施設分離型にしてくれたらよいのではないかという意見が出そうです。私個人的にもそう思います。
- 【会長】 一体型の方がよいという理由は何ですか、ということですね。

- 【委員】 PTA 会長としては、個人的な考えではなく、柏原東小学校のことも考えて公平な広い視点を持ちたいです。郷土愛は大切にしていますが。特に柏原地区の方々は熱い郷土愛を持っています。
- 【会長】 もし小中で一体型になる場合、施設面で教室は何とかなるとして、グラウンドなどの地域活動のための施設をどうするかという地域の声には答えるべきだと思います。
柏原小学校に柏原東小学校を寄せるのではなく、新たな一体型の学校をつくるメリット、魅力は何なのでしょう。これを具体的に語るべきです。
もう一度戻します。事務局からいただいた案はいくつか修正していただくことと、抜けている部分を盛り込むという扱いでよろしいですか。
- 【委員】 「現状と課題」に6つの視点が入っています。さらに「基本的な考え方」も書くとややこしくなります。基本的な考え方は飛ばして、方策①、方策②のようにまとめた方がわかりやすいのではないのでしょうか。
- 【会長】 まず端的に、「この校区はこうする」ということを□で囲んで書いてしまって、それを下で説明するまとめ方がわかりやすいかと思います。
- 【委員】 それがわかりやすいと思います。
- 【委員】 方策の「再編」「統合」「適正化」は精査して使い分けるべきだと思います。
- 【会長】 事務局は、「基本的な考え方」を□で囲む形でまとめ直してください。時間が気になっています。本来なら堅上中学校にも進みたかったのですが……。柏原中学校区の議論については様々な観点から幅広く議論いただきました。それを踏まえて、再度事務局から提案していただくことよろしいですか。
- 【事務局】 はい。
- 【会長】 よろしくお願ひします。本日の審議は以上で終了します。では、次回は堅上中学校区と国分中学校区について議論したいと思います。
それでは、事務局から連絡事項をお願いします。
- 【事務局】 次回、第9回の日程についてご案内します。次回は12月1日（火）19時30分から柏原市教育委員会教育委員会室にて行いますのでよろしくお願ひいたします。

【事務局】 以上で第6回柏原市小・中学校適正規模・適正配置審議会を終了いたします。ありがとうございました。